

JTAトピックス 2017年6月

高校生初！ 一部組手（中部大会）優勝！

伊藤岳陽（名古屋天白跆拳道クラブ）

2017年6月4日（日）、第9回中部テコンドー選手権大会実施の一部組手無差別級において名古屋天白テコンドークラブ所属の伊藤岳陽（いとう・たかはる）が優勝しました。現役の高校生（現在3年）が、一部のフルコンタクト・テコンドー・ルールで優勝したのは初めてです。



伊藤岳陽は、小学校低学年の頃、愛知大府テコンドークラブ新設時に第1期生として入門。約10年間、日本テコンドー協会七大精神を涵養しながら日本跆拳道の稽古に励んできました。学業も優秀で、中学生の頃から、将来、教員になることを目指しています。高校進学後、名古屋天白TCへ移籍しましたが（愛知大府TCは少年少女部中心のため）高1の頃から、毎週、古巣の愛知大府テコンドークラブの指導を補助する後輩思いの熱血漢です。まさに伊藤岳陽は、河明生宗師範が目指している日本跆拳道修行過程を通じた優れた非認知能力を涵養した「文武両道の青少年少女」の模範といえる優秀な門人です。

河明生宗師範談

「伊藤岳陽の入門時、たくさんの少年・少女がおり、伊藤よりも期待されていた会員もおりました。

入門当初の伊藤は、他の一部会員と相性が良くなかったのか、

「口喧嘩等、もめることもありますので、多分、残らないと思います」等、前任者が話していたことを記憶しています。

ところが、他の同期の少年や少女が、中学生入学前後の学習塾や部活動優先し、退会する中、

同期の今津や後輩の神谷と共に、伊藤は持続的に日本跆拳道を修練しました。

愛知県連会長の稲熊やクラブ長の辻の指導を受ける中、著しい成長を遂げました。

とくに、精神面での成長がすばらしい。

それを可能にした一つの原因は、日本跆拳道が重視している丹田呼吸の修得であろうと考えます。

深い呼吸を修得すれば、精神が安定して集中力が涵養され、思春期の揺れる心を前向きに抑えることができます。

おそらく退会した子供達よりも、伊藤は学業においても秀でていると思われます。

伊藤の成長をみると、まさに継続は力なり。

球技等、あれこれやりながらも、何一つものにならず、学業も延びない若者が多い中、

日本跆拳道という一つの武道を地道に探求し続け、精神を成長させながら学力をのばした伊藤は、

日本テコンドー協会少年少女部の模範的事例と考えられます。

伊藤岳陽！ 驕らず高ぶらず、謙虚な気持ちを忘れず、地道な努力を忘れず

全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会のA級男子無差別級組手で優勝、七蹴士を目指しなさい。

そうする過程で教職に対する使命感をもった有為な教員に成長して欲しい」